

果樹の省力栽培技術

今日の果樹栽培は、栽培者の高齢化や担い手の減少による労働力不足が大きな問題となっています。果樹栽培は、管理作業のほとんどが手作業によるため、機械化しにくく、省力化を進めるには、樹形や栽培方式を改善することが最大のポイントとなります。

このため、消費者が求める品質の良い果実を生産しながら、効率的で省力的な栽培方式を確立することが望まれています。

そこで、従来の樹形を抜本的に見直し、省力的かつ効率的な新しい樹形の開発に取り組んでいます。



1、モモの省力型樹形の開発

モモのY字棚を利用した樹形は、作業の単純化による作業効率の向上と生産の安定をねらいとしています。



2、ナシの波状棚を利用した作業環境の改善

従来の平棚仕立てから、約30度に斜立した波状棚で仕立てることにより、作業性の改善が図られ、かつ樹の生育の改善をねらいます。平棚仕立てによる上向き作業は、作業者にかなり負担となるため、ナシ栽培者からも強く改善が望まれています。



4、オウトウの平棚仕立ての開発

高木性のオウトウを平棚で栽培することにより、作業性が格段に改善され、果実生産の安定化が期待されます。また、雨除けハウスも従来より低くなり、危険性の高いビニール被覆作業もより安全になります。

3、不織布ポット利用によるリンゴの低樹高仕立て

不織布ポットを利用した根域制限により、地上部の生育を抑制し、高所での作業を少なくして省力化を図ります。密植栽培による早期多収も期待されます。

